

成果報告書 実践①

報告者氏名：達直美 所属：三重大学教育学部附属特別支援学校 記録日：2014年2月14日

【対象生徒の情報】

- ・ 学年 高等部3年生
- ・ 障害名 自閉症・療育手帳B2を所持
- ・ 障害と困難の内容
 - ・ 感情を表現することやTP0に応じたコミュニケーションが苦手である。
 - ・ 自信が持てず指示を待つことが多く、進路選択に向けて、様々な場面で自己選択・自己決定の力をつける取り組みが必要である。
 - ・ 地元の小・中学校に通学し、高等部から当校に在籍。

【活動目的】

1 iPadで本人につけたい力

- ① 生活に必要なスキルを身につけ、自信をもって行動する力をつける。
- ② 自分の思いや考えを人に伝える力を高めることができる。
- ③ 卒業後の生活を視野に入れ、自己選択・自己決定できる力や自分のことは自分でできる力をつける。



2 実施期間

高等部2年生～高等部3年生

3 実施者： 達直美

4 実施者との関係： クラス担任

【活動内容と生徒の変化】

1 対象生徒の事前の状況

- ・ まじめで温厚な生徒で、明確な指示を得ることで何事にも一生懸命に取り組むことができる。
- ・ 高等部1年生の時にデジカメの使い方を教えてもらい、いろいろな写真をとることに興味を持つようになってきた。
- ・ 自宅から学校までの電車通学はできるようになったが、公共交通機関を利用して一人で遠出することには自信を持てなかった。
- ・ 保護者が熱心にサポートすることもあり、指示待ちのところや自分で決めることができない姿も多く見られた。
- ・ 会話において、自分の興味関心のあることを優先して話をする傾向に有り、質問されたことに返答したり、場に応じた会話が成立しなかったりするところがある。

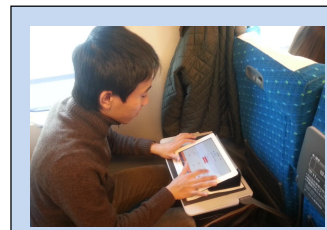
2 活動の具体的な内容と実践後の姿

① 「一人で行けちゃった！サポーターはiPad！」

生活に必要なスキルを身につけ、自信を持って行動する力をつける

【目的】

将来の生活の質・人生の質をより豊かにするために一人で色々なところに出かける体験を通し、自分でもできるという自己効力感から自信をもつことができる。



【方法】

- 1) 自分の行こうとしている場所をサファリで検索する。
- 2) 検索した場所をマップでピン打ちする。ピン打ちしたところを拡げながら、目的に向かう。
- 3) 乗降する公共交通機関の時刻表をサファリで検索し、乗り換えアプリを活用する。
- 4) 必要なことや買い物メモや出来事をメモする。

【iPad の具体的活用】

「マップ」「サファリ」「カメラ」「メモ」「リマインダー」「乗り換えアプリ」などを活用

【実践の流れと生徒の姿】

高等部2年生までは、通学以外は、一人で公共交通機関を利用して出かけたことがあまりなかったので、取り組み当初はどこまで一人で遠出ができるか半信半疑であった。しかし、取り組む前に保護者と連携し「東京の兄の下宿に一人で行く」という目標を掲げたことにより、その目標に向かう意欲が高まった。昨年からは社会生活の授業やクラスの校外学習で公共交通機関を使って地域に出かける計画を学期ごとに行い実践し、経験を積んできた。同時に、iPad 活用においても、ナビ機能・マップ・メモ・検索・乗り換えアプリなどの操作を学習しながらチャレンジすることができた。自宅のある四日市から名古屋→静岡→東京と公共交通機関で出かける距離を伸ばしながら最終的に昨年2学期に立川市の兄の下宿に iPad を片手に持って一人で行くことができた。目標達成後の本人の満足感はひとしおで「自分でもできる!」という自己効力感から自信がついた。今年度は、全国障害者スポーツ大会に家族以外の人と泊を伴う活動ができ、さらに東京へ一人で行き、行きたい場所を決めて都内の散策も一人で行けるようになった。まだまだ課題になることはあるが、最近では自分から友人を誘って出かけるなど、自信を持ち積極的に校外にでかけることが増え、友だちからも一目おかれる存在になった。このように余暇活動の拡がりに繋がり、本人からは、「初めての場所でも iPad があれば大丈夫」という頼もしい言葉が返ってくるようになった。

【一人で東京まで行くことができたのはなぜか】

・GPS 機能とカメラ機能

携帯にもついているが iPad に GPS 機能があることで、本人が道に迷ったときに相手に居場所を知らせることができることは一人で出かける際の安心感を与えてくれるものである。また、道中で本人が撮った写真やメールには、「いつ・どこで」ということが記録されるので、伝達することが苦手な生徒にとって、自分が今どこにいるか伝えたり、ここに行ってきたということを伝えたりするための有効なツールになった。このように、デジカメと iPad の違いは、すぐに撮ったものをメールにできるところにある。道中でたくさんの写真をメールで送ってきたので、今何をしているかよくわかった。保護者も安心して一人で、遠出させることができたのでは



ないかと考える。

・メモやリマインダー

メモには、時系列に細かくスケジュールを書き込んだわけではない。主要なこと、忘れてはいけないことなどを明確に指示する内容を書きとめた。不安になったときに確認していた。また、最近では、メモにその日に使ったお金を計算し、小遣い帳として記録することも行っている。メモ帳や筆箱をもっていなくても 字がわからなくても検索できるなどその場で容易にメモをとることができるところが iPad のよさの一つである。

・マップ

どのように一人でいけたのか本人に確認すると、マップを見せ、自宅と兄の住んでいる立川の駅に印をつけその地図を指で広げながら「こうですよ。こうするんです！」と地図を示した。東京駅での乗り換えもマップ見ながら移動したようである。スクロール、タップ、ピンチなど操作が容易であることも子どもの探究心を促すことができたのではないかと考える。

・必要なものは片手にもつ iPad におさまっている

どこでもインターネットに繋がる 3G 機能、カメラ、パソコン、メモ帳、電卓、時計これらがすべて iPad におさまっている。片手に iPad を持ち、操作しながら移動できたのではないと思う。「わからないことは人に聞きましょう」と私たちはよく言うが、人に聞くことが苦手な子どもたちにとっては、iPad の利便性がサポーターになりかわってくれるのではないかと考える。

②「楽しかったこと・うれしかったことお知らせメール」&「現場実習日誌メール」

自分の思いや考えを人に伝える力を高めることができる。

【目的】

自分の気持ちの表現ができるようになる。
文章表現や構成力がつく。

【方法】

・毎日持ち帰り、その日出会った人・物・事の中から自分の気に入った事柄を写真にとり文章を添えてメールをする。支援者がその内容に対して、質問や感想を投げかけたり、文章に対しての指導助言をしたりする。

・現場実習日誌の写真を撮り、メールで送り、毎日の様子を担任に伝える。

【iPad の具体的活用】

「カメラ」「動画」「メール」

【実践の流れと生徒の姿】

毎日コツコツ日記を書くなどまじめに取り組むことができるが「いつ・どこで・だれが・何をしたか」という文章構成のみで、「どのように思ったか、どう感じたのか」というところへの掘りには難しい面があった。そのため日記にコメントを書くだけでなく、本人の好きな写真をメールで送ってもらい、そのことについてのコメントを会話や文章表現に繋げることができないかと考えた。最初は 1 行・2 行程度の文章が送られてきたり、メールのタイトルがついていなかったりしたが、回を重ねる中で短いながらも自分の言いたいことが伝えられるようになってきた。文きり



一方的に話をすることが多かったが、メールでのやりとりをするようになってから、クラスの活動を行う際に、躊躇している生徒に対して「〇〇さん！一緒に〇〇しましょうよ！」と言葉をかけたリ、「〇〇ですねえ」と相づちを打つ言葉など自ら関わりを求めたりする会話が増えてきた。

③僕の紹介…アルバムづくり・電子スクラップ・ブログにチャレンジ

卒業後の生活を視野に入れて、自分で写真や記事や出来事を選びアルバムづくりやスクラップやブログが作成できる。それらを通して自分をアピールすることができる。

【目的】

自己効力感を高める。

【方法】

撮りたい写真を集めアルバムに整理しタイトルをつける。

電子スクラップを作り、朝の会で報告する。

その日紹介したい出来事を選び、ブログを作成する。

【iPadの具体的な活用】

カメラ・アルバム・DAY ONE・ライブドアブログ

【実践の流れと生徒の姿】

アルバム…昨年からiPadを持ち歩き、自分の気に入った写真をたくさん撮っている。写真を撮ることは何を撮りたいのか自分で選んで決める自己選択の力を育むことに繋がっている。現在たくさん撮った写真をアルバムのアプリを活用して、アルバムづくりをしている最中である。現場実習や出会った人に写真を見せる際にジャンルごとに見せることができ、話をするきっかけにもなっている。



★エピソード③★

現場実習以外でも、iPadのカメラで撮った自分の写真を見せ、「僕の撮った写真です。これは自分で作った唐揚げです。見てください」などとiPadに保存されている写真をきっかけにして、コミュニケーションしようとする積極的な様子が見られるようになった。コミュニケーションが苦手な生徒にとって、自分の得意なことをiPadで紹介して自分を知ってもらおうとする姿は、学校のように支援者がいなくなる卒業後の生活においてよいiPadが一つのサポーターになると考える。

電子スクラップ…1年生から毎日、新聞の記事を自分で選び、朝の会で紹介する活動に取り組んできた。スクラップブックに記事を貼りコメントをつけてきたが、その活動をiPadですることによって、もっと簡単にできないものかと考えDAY ONEのアプリを活用して電子スクラップを行っている。毎朝自分でプロジェクターにiPadをつなぎ報告している。この取り組みを通して、日常生活や地域社会で起こっている出来事に興味を持てるようになってきた。アルバム同様に記事を選択し文章を書き込むこの取り組みも、人とのコミュニケーションのきっかけになり自己選択自己決定の力に繋がっている。





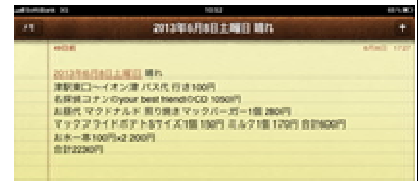
ブログ…1年生から毎日、日記を書いているが、行事やイベントや休日の出来事をブログに書き込み記録として残すことを試むことにした。ブログは自分からの一方的



な発信であり、すぐにコメントが返ってこないところで他のソーシャルネットワークよりもトラブルが少ないのではないかと考えた。今では、写真を貼り付け、その日あったことを文章にして積極的に記録している。そのブログを朝の会で報告するとクラスの仲間から「すごいね」といわれなど他者からの肯定的な評価がえられることで自信をもつことにつながってきている。今後は、卒業後の生活を視野に入れて、自分の生活を振り返ったり、仕事場での出来事を写真にとりアップすることで職場の人が生徒の考えていることや困っていることなどが把握でき、家庭や職場をつなぐツールとして活用できるのではないかと考え模索している。

<http://blog.livedoor.jp/btz4262g7s/>

④ 卒業後の生活を視野に入れて…お小遣い帳の作成



【目的】卒業後の生活を視野に入れ、自分でお金の管理ができるようになる。

【方法】初めはメモ帳に使ったお金を記載していたが、就職後の生活を考えZAIMというアプリで毎日お小遣い帳をつける練習をしているところである。

【iPadの具体的な活用】

ZAIMのアプリを活用。

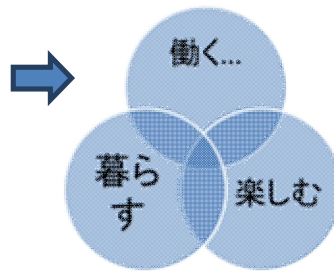
【実践の流れと生徒の姿】

卒業後は就労をする生徒であるので、お給料を自分で管理できるように、今まではメモ帳でお小遣い帳をつけていたが、金銭管理のできるアプリを活用することで項目も自動的に分けられ、何にどれだけの金額を使ったのか視覚的にもわかりやすいようである。まだ試行の段階であるので、他のアプリも試行しながら本人にあったお小遣い帳が作成できるようにしていきたい。



【報告者の気づき】

学習の中で重み付けをしてきた3要素にiPadを活用し、個のニーズに応じた指導と支援を考える機会とする。



末生徒の社会参加と自立の可能性を拡げることが目的とし、情報端末機を個々の能力を補うための能力の一部として組み込むことで、生徒のできることが拡がり、自信をもって活動する姿が見られました

- iPadは、使うことを目的にするのではなく、何のためになぜ使うのかを明確にする事が必要であり、学校から生活への汎化が求められるところである。今回は既存のアプリを活用し、本人自身が何に使うのか、何のために使うのか、自身の興味関心をもとに繋げたことで、自らiPadのもつ機能を発見しながら活用する姿があった。また、教えなくても自ら探し出し、見いだす姿や私たちの予想を反する姿も見せてくれた。一人で出かけるための取り組みで、友達と出かけるという活動に汎化しているところを今後活かしたいと思う。
- 送られてくる写真や文章をみて、今関心を持っている物・事・人がわかり、新たな一面をみる事ができた。料理や人との会話に関心も持ちはじめたことをさらに学習活動で活かしていくが必要だと考える。またメールで送られてくる文章で、今どんなことにつまずいているか、どんな学習が必要になるかなど課題が明確になった。感情表現はまだ難しさがあるが、文章が長くなり、具体的に説明することの大切さに気付いたところを今後活かし、文章力や表現力をサポートするアプリなどの活用も考えながら支援していきたい。
- 文章力をつけるために、今まで字を書かせて取り組んでいた。子どもたちの多くに字を書くことが苦手な実態やこだわりの実態もある。苦手なことを強要しながら、文章を作成させるのではなく、興味関心のあるメールのやりとりで力をつけることも可能であると実感している。今後は作成する文章の変化を評価できる手立てを考えていきたい。
- 保護者との連携も密になり支援の方法を話し合うこともできた。今後は身につけさせたい力を焦点化して、そこにiPad等のICT機器を卒業後の自立をサポートする一つのツールとして活用していきたいと思う。iPadを活用して一人で外出できるようになったことで、今年度から、福祉サービスを受けていた移動支援を必要としなくなった。卒後の生活において、iPadは、本人にとってなくてはならない支援機になったと思う。

【エビデンス】

① 外出先の拡大

1年次…居住地の四日市から名古屋まで一人で行けるようになり、自分の好きな場所であるブックオフ巡りができた。また、新幹線で東京にいき、立川まで一人で行けた。

2年次…1年次は一人または家族との活動が主であったが、友だちを誘って名古屋にいたり、全国障害者スポーツ大会に一人で参加できたりするなど宿泊を伴う活動に一人で行けるようになった。

② 生活場面への般化



運動会のゼッケンを自分で縫う…家で練習した様子を写真に撮り、学校でわからなくなったときに自分で確認して完成させた。自分で考え工夫する姿をさらに生活活かしてほしい。



iPad を活用して様々な経験を積むことで自信がもて、泊を伴う活動に一人で参加できるようになった。全国障害者スポーツ大会に参加した。

③ メール送信

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
回数	37	17	32	27	30	6	8	10	11	44

④ 電子スクラップ

毎日、紙媒体で続けていたスクラップを12月から電子スクラップに移行してきた。新聞社のサイトから気に入った記事を選び、朝の会でiPadをプロジェクターにつなぎ発表している。

12月4回 1月 27回 2月現在17回

⑤ ブログ作成

9月から自分から発信することとして、ブログ作成を行っている。現場実習先や初めてで会う人に自分の紹介をすることなどで活用している。

月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
回数	3	13	11	9	9	10

【学校の今後の活用に向けて】

iPadの良さは、何か…。〇〇する・〇〇できるではなく、使い手が関心を持つところで自由に使える良さ、支援する側が予想しない部分がひきだされるよさが魔法なのかもしれない。その良さを引き出すためには、支援する側の固定概念の脱却や引き出すための技術も必要である。

当校においてはICT機器環境を整えながら、私たち自身のICT活用技術を今後さらに身につけ、子どもたちの未来に繋げていきたいと思う。